

PF シンポジウムと KENS・MUSE シンポジウムの合同開催のお知らせ

PF シンポジウム実行委員長 雨宮健太 (KEK・PF)

今年度、第30回をむかえるPFシンポジウムは、これまで別途行っていた物構研シンポジウムに統合し、KENS・MUSEシンポジウムと合同で開催することが決定いたしました。現在、プログラムや新しい合同シンポジウムの名称について検討を行っています。開催日時は2013年3月14日(木)～15日(金)の2日間、会場はつくば国際会議場(エポカルつくば)を予定しております。このシンポジウムは、施設側スタッフ、ユーザーの皆様が一同に会することができる機会ですので、是非ご参加いただきますようお願い申し上げます。

また、例年通り前日の3月13日(水)夕方にユーザーグループミーティングを開催していただけるように、会議室を確保します。のちほど、ユーザーグループミーティングに関するアンケートを行いますので、ご協力のほどよろしくお願い致します。

実行委員会の設置や詳しいプログラムなどは、決まり次第ホームページやPFニュースで皆様にお知らせ致します。

PF 研究会「顕微分光研究の新展開」開催のお知らせ

放射光科学第一研究系 小野寛太

本研究会では最近国内で導入が始まりつつある走査型透過X線顕微鏡(STXM)の研究開発を軸に、3次元NanoESCAやオーソドックスな光電子顕微鏡に関する話題提供を行い、顕微分光の新しい研究展開について議論を行う予定にしている。

またアプリケーションとしてナノ磁性からソフトマテリアルあるいは環境科学にわたる広い分野の最新情報を発表する予定にしている。このような材料分野から解決すべき問題を提起することで、解析技術と材料科学の邂逅を通じた、新しい放射光科学の発展に繋がりたい。

本研究会は、2010年に開催された第2回日本放射光学会若手研究会「顕微分光のフロンティア」の次の展開として位置付けており、積極的な若手支援を考えている。それに加えてPF-UAユーザーグループである量子ナノ分光およびマイクロビームX線分析応用からの支援を受けつつ、PFの利用研究促進も目的としている。

当日参加も可能ですので、どうぞご興味のある方は奮ってご参加いただきたい。

日時：2012年9月13日(木)～14日(金)

場所：高エネルギー加速器研究機構 研究本館小林ホール

申し込み方法：研究会ホームページ (<http://pfwww.kek.jp/pf-seminar/Nano/>) にあります参加申し込みフォームよりお申込み下さい。

懇親会：9月13日(木)の夜に予定しています。

問い合わせ先：kanta.ono@kek.jp (小野寛太)

PF 研究会「KEK 低速陽電子実験施設における陽電子回折研究およびPsビーム研究の新展開」開催のお知らせ

放射光科学第一研究系 兵頭俊夫

KEK 低速陽電子実験施設では、専用ライナックで生成したエネルギー可変低速陽電子ビームによる共同研究が展開されています。そのビームは世界最大級の強度をもち、1 ns～10 ns(短パルスモード)あるいは1 μs(ロングパルスモード)の可変幅のパルス状のビームであり、かつ100 eV～35 keVの可変エネルギーで輸送するという特徴があります。最近、高強度を生かした反射高速陽電子回折の共同利用、及び、パルス特性を生かしたポジトロニウム負イオン/ポジトロニウムビーム生成の共同利用が精力的に行われ、優れた成果が出ています。平成24年度科研費において、KEKでの陽電子回折実験の開発を目的とする基盤(S)の課題が採択されました。また、KEKにおける実験を一部に含むポジトロニウム負イオン/ポジトロニウムビーム関連の研究課題も基盤(S)に採択されています。

本研究会では、低速陽電子回折の理論家であり陽電子ホログラフィーの提唱者であるS.Y. Tong教授と、反射高速陽電子回折の提唱者である一宮彪彦教授を迎えて、陽電子回折法の基礎との応用の可能性についてお話しいただきます。また、これまでに得られた反射高速陽電子回折と角度分解光電子分光の連携の成果や、ポジトロニウム負イオンの高効率生成を利用したエネルギー可変ポジトロニウムビームの生成とその応用の可能性について議論します。

ご興味のある方はどうぞ奮ってご参加下さい。

日時：2012年10月3日(水)～4日(木)

場所：高エネルギー加速器研究機構 研究本館小林ホール

申し込み方法：研究会ホームページ (<http://pfwww.kek.jp/pf-sec/PF-kenkyukai/spf12/index.html>) の参加申し込みフォームをご利用ください(9月上旬開設予定)。

懇親会：10月3日(水)の夜に予定しています。

問い合わせ先：toshio.hyodo@kek.jp (兵頭俊夫)

平成 25 年度前期共同利用実験課題公募について

高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所の放射光科学研究施設（フォトン・ファクトリー）は、電子蓄積リングから放出される放射光を用いて研究を行うための全国共同利用研究施設です。下記の要領で共同利用実験課題を公募します。なお、低速陽電子実験施設の共同利用実験課題を併せて公募します。課題審査等は放射光共同利用に準じて行われます。

今回の公募は 10 月上旬から受付開始し、締切は **11 月 2 日（金）17 時** です。申請は専用 Web ページ (<https://pmsweb.kek.jp/k-pas>) にアクセスして、必要事項を入力して下さい。これまで PF を利用されていない方は新規にユーザー登録が必要になりますので、余裕を持って申請ください。締切時間は Web システムで設定されており、少しでも締切時間をすぎますと受け付けられなくなりますので十分ご注意ください。来年 2 月に審査結果の速報が電子メールで送られる予定です。採択された課題は来年の 4 月に有効となり、実験が開始できます。

【概要】

応募資格者は国立、公立及び私立大学、国立、公立研究所等の研究機関の研究者、又はこれらに準ずる研究者に加えて、科学研究費補助金の申請資格を有する機関に所属する研究者が研究成果を無償で社会に還元することを主目的とする研究等も含まれます。軍事目的の研究はできません。

所定の手続きに従って共同利用実験申請書を提出し、課題審査委員会で採択された場合は無償で実験を行うことが出来ます。**原則として評点の高い課題から順にビームタイムが配分されます。**実験参加者（研究者および大学院生）は規程に従い、図書室の利用等の便宜供与を受けるとともに、機構内の宿泊施設を利用し、旅費、宿泊費等の支給を受けることができます。

利用できるビームライン・実験装置については「フォトンファクトリーの実験ステーション・実験装置」(http://pfwww.kek.jp/users_info/station_spec/index.html) を参照下さい。

【研究成果の公表】

実験の結果は公表（学術論文、学位論文、Activity Report、学会口頭発表等）していただきます。論文には使用した施設名、ビームライン名を明記して下さい。謝辞には以下の様に課題番号を記載して下さい：This work has been performed under the approval of the Photon Factory Program Advisory Committee (Proposal No. 2006G123)。

放射光共同利用実験結果が少しでも含まれる学術論文、学位論文などを発表された場合にすみやかに PF 出版データベース (http://pfwww.kek.jp/users_info/users_guide/pubdb.html)、学位論文データベース (http://pfwww.kek.jp/users_info/users_guide/thesispubl.html) に登録し、別刷りまたは PDF ファイルをお送りください。成果を記者発表する場

合には事前に広報担当者（宇佐美徳子 :noriko.usami@kek.jp）にご連絡ください（参考：「プレスリリース等成果発表について」<http://imss.kek.jp/howtopress/index.html>）。

実験の成果およびそれにかかわる知的財産権の専有を希望される場合は、下記研究協力課共同利用支援室共同利用係にご相談下さい。本共同利用実験により得られた知的財産権の帰属については、大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構知的財産取扱規程に基づき、その都度協議することになります。

過去に採択され、実施された課題が複数ある場合には、それらの課題による PF 出版データベースへの登録状況が審査に際して考慮されます。その基準は以下の通りです。

申請課題の採択時から遡って 2.5 年前から 8.5 年前に採択された課題が 2 件以上ある場合について、

1. 採択課題数の 1/3 以上の課題について論文が登録されていない実験責任者に事情を照会する（yellow card 調査対象）。
2. 調査の回答に基づき、問題点の解析を行う。
3. 回答がない実験責任者の申請課題は不採択とする。
4. 論文登録の少ない実験責任者の申請については、実験責任者からの回答、該当期間の課題に関する論文登録状況、学位論文等の登録状況を考慮し、PAC 分科会で評点の減点を提案し、PAC で決定する。減点は以下の基準で行う。

* 2/3 以上の課題について論文登録がない場合は、-1.0 を基準とする。1/3 を越える課題について論文登録がない場合は、-0.5 を基準とする。

【課題のカテゴリー】

課題のカテゴリーには、一般的な実験（G 型）、初心者による実験や予備実験（P 型）、緊急かつ重要な実験（U 型）、特別型（S1, S2 型）等があります。それぞれのカテゴリーの特徴、審査基準などの詳細は PF の Web (http://pfwww.kek.jp/users_info/pac_application/category.html) をご覧下さい。

【審査について】

◆申請のあった実験課題は、当研究所に設置された放射光共同利用実験審査委員会（PF-PAC）で審査し、運営会議の議を経て、所長が採否の決定をします。なお、緊急かつ重要な実験課題（U 型）については、申請書受理後、直ちにレフェリーの意見を徴し、その意見を参考にして、その都度、採否を決定します。

◆申請書には一つの研究課題に関する研究内容・計画を記し、関連性の薄い複数の研究課題を列記しないでください。審査は申請書に記述された研究の内容について行ないますので申請書は具体的に記述して下さい。

◆すでに述べましたが、これまでに実験をされた方からの申請については、それらの課題に関する論文登録状況も審査の対象となります。PF 出版データベースおよび学位論文データベースへの登録を予め確認してください。登録状

況が宜しくない場合は、課題審査に先立ち電子メールで事情説明を求めます。回答がない場合は、不採択となります。速やかに回答してください。

◆審査結果は、実験責任者および Contact Person in Japan (国外からの申請の場合) にお知らせします。

◆S2型の審査は、書面審査の後、評定者(5人以上)等を対象に口頭説明を行いません。採択の後には、毎年PFシンポジウムで進行状況を報告して頂き、PF-PACで評価します。採択されたU型課題はPFシンポジウムで報告していただきます。

◆P型(予備実験・初心者実験)の申請に当たっては、実験ステーション担当者との事前打ち合わせが必須です。十分な時間的余裕をみた上で、実験ステーション担当者と技術的なことについて緊密に打ち合わせて下さい。また、初心者型の実験には経験者を加えることが出来ません。

◆本公募により提供された個人情報、課題審査および課題採択後に共同利用実験を円滑に実施するための連絡等の目的で利用いたします。また、採択課題については、本機構のホームページ及び刊行物に実験責任者氏名・所属及び実験課題名等を掲載することをご了承下さい。

【ビームタイム配分】

課題審査では学問上の価値、技術的な実行の可能性に重点を置いて申請書の評価を行い、最高5点で評点を付けます。このため、課題が採択されたことは必ずしもビームタイムを申請されたビームタイムの配分を約束するものではありません。ビームタイムの配分は、課題の評点を考慮して、運転期毎に行われますので、使用するビームラインの担当者と連絡をとってください。今回採択されたG型課題の評点分布はp.74に掲載しています。

【その他】

◆実験を行うに当たり、放射線業務従事者として登録していただく必要があります。

◆実験を実施する時は、安全確保のため、放射線、化学薬品、有害物質等に関する当機構の諸規則その他の関係法令の規制を受けます。

◆国内の大学等からの利用に当たり、PFのルールに基づき旅費、滞在費のサポートを行います。また、宿舎等は空きのある範囲で利用可能です。

◆(課題の再申請) 採択されたけれども評点が低いためにビームタイムが配分されない課題について、より高い評価を得るために再申請を行うことができます。このような申請を提出する場合には申請書の中に再申請であることを明記して下さい。再申請が採択された場合には、いずれかの課題を取り下げさせていただきます。

不明な点は下記までお問い合わせ下さい。

研究協力課共同利用係

Tel: 029-864-5126 Fax: 029-879-6137

Email: kyodo1@mail.kek.jp

平成25年度前期 フォトン・ファクトリー研究会の募集

放射光科学研究施設 村上 洋一

物質構造科学研究所放射光科学研究施設(フォトン・ファクトリー)では放射光科学の研究推進のため、研究会の提案を全国の研究者から公募しています。この研究会は放射光科学及びその関連分野の研究の中から、重要な特定のテーマについて1~2日間、高エネルギー加速器研究機構のキャンパスで集中的に討議するものです。年間6件程度の研究会の開催を予定しております。

つきましては研究会を下記のとおり募集致しますので応募下さいませようお願いします。

記

1. 開催期間 平成25年4月~平成25年9月
2. 応募締切日 平成24年12月21日(金)
[年2回(前期と後期)募集しています]
3. 応募書類記載事項(A4判、様式任意)
 - (1) 研究会題名(英訳を添える)
 - (2) 提案内容(400字程度の説明)
 - (3) 提案代表者氏名、所属及び職名(所内、所外を問わない)
 - (4) 世話人氏名(所内の者に限る)
 - (5) 開催を希望する時期
 - (6) 参加予定者数及び参加が予定されている主な研究者の氏名、所属及び職名
4. 応募書類送付先(データをメールに添付して送付)
放射光科学研究施設 主幹秘書室 森 史子
Email: pf-sec@pfiqst.kek.jp
TEL: 029-864-5196

なお、旅費、宿泊費等については実施前に詳細な打ち合わせのうえ、支給が可能な範囲で準備します(1件当り上限50万円程度)。開催日程については、採択後にPAC委員長と相談して下さい。

また、研究会の報告書をKEK Proceedingsとして出版していただきます。

防災・防火訓練のお知らせ

放射光科学第二系 防火・防災担当 平木雅彦・山田悠介

高エネルギー加速器研究機構では全機構での防災・防火訓練を年1回行っています。本年度の訓練は、

2012年11月2日(金)午後

に行う予定です。

訓練では、緊急地震速報が発令された場合の対処、地震発生後の機構指定避難場所（PF ニュース裏表紙参照）への避難・誘導、避難場所での職員・ユーザーの安否確認などを中心に訓練を行います。訓練は30分間程度の予定で、避難の際、MBSを閉じることになりますので、PF、PF-ARとも一時的に実験ができなくなります。

東日本大震災が発生した日は、その日の朝に運転が終了し、実験ホールにはユーザーの方はあまりいらっしゃいませんでしたが、これまで毎年ユーザーの皆様にもご協力いただき訓練を行っていたこともあり、ユーザー・職員の安否確認も迅速に行うことができました。また、実験装置の転倒・落下などの被害はあったものの、幸いにも人的被害はありませんでした。

PFでは、多くのユーザーが閉じられた空間で実験を行っており、放射線や化学薬品なども扱っていますので、非常時には迅速な対応が取れるよう、日頃の訓練が極めて重要と考えています。大切な実験時間の一部を使っての訓練となりますが、一人でも多くの方に参加していただけますよう、ご協力をよろしくお願いいたします。

PC関連セキュリティに関して

放射光科学第一研究系（情報セキュリティマネージャ）
濁川和幸

KEKの情報セキュリティポリシーでKEKのネットワークに接続するPCにはOSの別にかかわらず、ウィルス等の対策ソフトの導入が求められています。ユーザーの皆さんが実験のために持ち込まれて使用されるPCについても無線LAN等でネットワークに接続する場合は上記を守る必要がありますので、ご注意ください。

また、昨今では持ち込まれたUSBメモリ等からウィルスやワームが発見されることが多くなっています（週に1度以上の頻度で発見されています）。ウィルスやワームに感染したUSBメモリ等を刺したPCに感染すれば、最悪の場合は実験にも支障をきたします。持ち込まれるUSBメモリ等にウィルス等がないことを十分に確かめてから使用されるようにしてください。

なお、持ち込まれたPCやUSBメモリにウィルスがあり、他のPC等に拡大するような動作が確認された場合は、KEKの規定に則り必ず「不正アクセス被害届出」を提出していただきますので、ご承知おき下さい。

KEK 一般公開のお知らせ

一般公開実行委員

放射光科学第二研究系 野澤俊介, 山田悠介
加速器第七研究系 田原俊央

今年のKEK一般公開は、『宇宙・物質・生命』—宇宙の謎と素粒子—というテーマで9月2日(日)に開催されます。KEK内にある、多くの施設が公開されますので、同じ敷地にありながらこれまで足を踏み入れたことない施設を、見学されてみてはいかがでしょうか。

PFでは、PFコントロール室、PFリング、PF実験ホールの一部、PF-AR実験ホールの一部を公開する予定です。PFの研究棟には、物構研展示コーナーが設けられ、中性子、ミュオンを使用したJ-PARCでの研究内容、低速陽電子施設での研究内容についての展示が行われます。また、次世代光源としてKEKで計画が進められているERL計画についての展示も行われます。研究本館小林ホールで行われる特別講演では、「地球環境を守る！放射光が変えるわたしたちの未来」と題しまして、広島大の高橋嘉夫教授が講演を行なう予定です。講演では、放射光分析を用いた環境地球化学に関して詳しく紹介して頂けることと思います。また、4号館セミナーホールで行われる講演として、放射光関連では大阪大の児嶋長次郎准教授に「あなたも花咲かじいさんに？放射光で見る花咲かホルモン」と題した講演も行って頂く予定となっております。

当日は、KEK内のそれぞれの場所でそれぞれの担当者が工夫をこらして、加速器、実験機器、研究成果の展示や科学おもちゃの展示、実演などを行う予定です。小さいお子さんからお年寄りの方まで楽しめるような企画が盛りだくさんですので、放射光ユーザーの皆様も、普段とは異なるKEKを楽しんでいただけたらと思います。ご家族、ご友人お誘い合わせのうえ、KEK一般公開にお越しいただきますよう職員一同心よりお待ち申し上げます。

つくばセンター（つくばエクスプレス「つくば駅」下車すぐ）とKEKの間は当日無料送迎バスが運行されます。また、機構内の移動には無料巡回バスが運行されます。

KEK一般公開に関する詳細は、<http://openhouse.kek.jp/>をご参照ください。

1. 日時：2012年9月2日(日) 9:00～16:30

2. 公開施設等：

コッククロフト・ウォルトン型高電圧加速器、電子陽電子線形加速器、フォトンファクトリーリング・実験ホール、Bファクトリー加速器、Bファクトリー筑波実験棟・展示室、先端加速器試験棟、超伝導リニアック試験施設棟、先端計測実験棟、放射線科学センター、計算科学センター、機械工学センター、超伝導低温工学センター、常設展示ホール「KEKコミュニケーションプラザ」

3. 展示等：

ERL計画、国際共同実験（CERN-LHC ATLAS実験など）、

大強度陽子加速器施設 J-PARC (T2K ニュートリノ振動実験, ハドロン実験など), 素粒子理論研究, 史料室展示など。

4. 特別講演 (研究本館小林ホール) :

◇ 10:00 ~ 11:00

「謎の素粒子ニュートリノ日本縦断 300 km -T2K 実験-」

講演者: 小林 隆 (KEK 素粒子原子核研究所教授)

◇ 11:30 ~ 12:30

「LHC 最新結果 - 質量起源の謎にせまる -」

講演者: 津野総司 (KEK 素粒子原子核研究所助教)

◇ 14:00 ~ 15:00

「地球環境を守る! 放射光が変えるわたしたちの未来」

講演者: 高橋嘉夫 (広島大学大学院理学研究科教授)

5. 講演 (4号館セミナーホール) :

◇ 11:00 ~ 11:45

「あなたも花咲かじいさんに? 放射光で見る花咲かホルモン」

講演者: 児嶋長次郎 (大阪大学大学院理学研究科准教授)

◇ 13:00 ~ 13:45

「リチウムイオン電池を高性能にする放射線?」

講演者: 米村雅雄 (KEK 物質構造科学研究所特任准教授)

◇ 15:00 ~ 15:45

「放射線量とは - サーベイメータは何をどのように測っているのか -」

講演者: 高橋一智 (KEK 共通基盤研究施設技師)

6. その他の主な企画 :

○おもしろ物理教室「振動と波動」

○ラジオを作ってみよう

○霧箱を作って放射線を見てみよう

○科学おもちゃであそぼう!

○声はどれだけ遠くまで届くか? (屋外・雨天中止)

○なんでも質問コーナー

○量子色力学カードゲーム『クォーク・カード・ディーラー (Quark Card Dealer)』

○理論クイズ大会



図1 今年のKEK一般公開のポスター

予 定 一 覧

2012年

- 9月 2日 KEK 一般公開
- 9月 13日~14日 PF 研究会「顕微分光研究の新展開」(KEK・小林ホール)
- 9月 28日 文化財科学講演会「放射光・中性子で文化財を探る」(飯田橋・研究社英語センタービル)
- 10月 3日~4日 PF 研究会「KEK 低速陽電子実験施設における陽電子回折研究および Ps ビーム研究の新展開」(KEK・小林ホール)
- 10月 15日 PF 平成 24 年第二期ユーザー運転開始
- 10月 15日~17日 XAFS 講習会 2012
- 10月 19日 PF-AR 平成 24 年第二期ユーザー運転開始
- 11月 2日 KEK 防災・防火訓練
- 12月 21日 平成 25 年度前期フォトン・ファクトリー研究会公募締切
- 12月 21日 PF, PF-AR 平成 24 年第二期ユーザー運転終了

2013年

- 1月 12日~14日 第 26 回日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウム (名古屋大学)
- 3月 14日~15日 PF シンポジウムと KENS・MUSE シンポジウムの合同開催 (エポカルつくば)

第26回日本放射光学会年会・ 放射光科学合同シンポジウム開催要項

1. 開催日 2013年1月12日(土), 13日(日), 14日(月)

2. 場所 名古屋大学 (名古屋市千種区不老町)

3. 主催 日本放射光学会

共催 名古屋大学シンクロtron光研究センター, 自然科学研究機構分子科学研究所極端紫外光研究施設, 科学技術交流財団シンクロtron光センター, あいち産業科学技術総合センター, 大阪大学蛋白質研究所, 九州大学シンクロtron光利用研究センター, 高エネルギー加速器研究機構放射光科学研究施設, 高輝度光科学研究センター, 佐賀県立九州シンクロtron光研究センター, 佐賀大学シンクロtron光応用研究センター, 産業技術総合研究所計測フロンティア研究部門, SPring-8 ユーザー協同体 (SPRUC), 東京大学物性研究所軌道放射物性研究施設, 東京大学放射光連携研究機構, 東京理科大学総合研究機構赤外自由電子レーザー研究センター, 東北大学特定領域横断研究組織「シンクロtron放射」, 日本大学電子線利用研究施設, 兵庫県立大学New SUBARU, 広島大学放射光科学研究センター, PF-ユーザーアソシエーション (PF-UA), VUV・SX 高輝度光源利用者懇談会, UVSOR利用者懇談会, 理化学研究所播磨研究所, 立命館大学SRセンター, 立命館大学卓上型放射光センター

後援 名古屋大学

4. 組織委員会 ([]は推薦団体, ○は委員長)

井田 隆 [PF-UA (名工大)], 奥田太一 [HiSOR], 郭其新 [佐賀大], 加藤健一 [理研播磨], 加藤政博 [プログラム委員長 (分子研)], 神田一浩 [兵庫県立大], 木村滋 [JASRI], 栗栖源嗣 [阪大蛋白研], 小池正記 [産総研], 佐々木園 [SPRUC (京都工繊大)], 繁政英治 [分子研], 曾田一雄 [UVSOR 懇 (名大)], 大門寛 [VUV・SX 懇 (奈良先端大)], 高桑雄二 [東北大], 高原淳 [九州大], 竹田美和 [実行委員長, 名大, 科学技術交流財団], 唯美津木 [学会会計幹事 (分子研)], 築山光一 [東京理科大], 難波秀利 [立命館大学 SR], 早川恭史 [日大], 原田慈久 [東大物性研], 兵藤一行 [KEK-PF], 平井康晴 [SAGA-LS], 前尾修司 [立命卓上 SL], ○松田巖 [学会行事幹事, 東大放射光連携 (東大物性研)], 水木純一郎 [学会会長 (関学)]

5. プログラム要綱

- ・ 12日, 14日は各施設の利用者懇談会を行う予定です。
- ・ 13日午後に総会, 13日夕方に懇親会を開催予定です。
- ・ 12日, 13日, 14日は企画講演, 特別講演, オーラルセッション, ポスターセッション, 企業展示, 施設報告等を行う予定です。

6. 参加費

	11月30日までに支払	12月1日以降
		(現地での支払いをお願いいたします。)
放射光学会員	5,000円	6,000円

共催団体会員・職員	7,000 円	8,000 円
非会員	9,000 円	10,000 円
学生会員	2,000 円	3,000 円
学生非会員	3,000 円	4,000 円
懇親会(一般)	5,000 円	6,000 円
懇親会(学生)	2,000 円	3,000 円

- ・ 発表申込時に参加登録を一緒に行っていただきます。その際、参加費および懇親会費の支払いの手続きも行ってください。事前の支払いは、クレジットカード払い、銀行振込が可能です。手続きの方法は、参加登録開始後放射光学会ホームページ上 (<http://www.jssrr.jp>) でご確認ください。なお、参加をキャンセルされた場合の返金はいたしません。
- ・ 参加登録のみの場合も、同じく学会ホームページからできるだけ事前に行ってください。
- ・ 12月1日以降の参加登録、または、11月30日までに事前に支払手続きを行わない場合は、12月1日以降の参加費を現地受付でお支払いください。
- ・ 予稿集の事前送付は行いません。当日現地受付にてお渡しいたします。尚、12月上旬にホームページ上でアブストラクトを公開予定です。11月30日までに支払を済まされた方には、閲覧のためのパスワードを送付いたします。

7. 発表者資格

日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウムの一般講演・ポスターの発表者(登壇者またはポスターの発表の場合は説明者)は、①主催団体の日本放射光学会会員、または、②共催団体の会員か職員に限ります。

- (1) 共催団体の会員または職員で日本放射光学会会員となっていない方は、放射光科学の発展に学会が果たしている役割をご理解いただき、日本放射光学会に入会していただくことを強く希望します。
- (2) 発表申込み時点で上記の資格を有しない方は、発表当日までに資格を取得する必要があります。特に、日本放射光学会への入会申込み手続きを至急行っていただくことを希望します。
- (3) 発表者が日本放射光学会の会員、または共催団体の会員・職員である場合は、共同発表者の中に上記の資格を満たさない方が含まれていても差し支えありません。

8. 発表申込について

・ 受付開始:**2012年9月3日(月)**

・ 申込締切:**2012年10月1日(月) 17:00 厳守**

申込方法: 日本放射光学会ホームページ (<http://www.jssrr.jp>) を通して、発表申込、予稿集原稿提出、参加申込を行ってください。

- ・ ネットワークトラブル回避の為、締切日直前の申込みはなるべく避けて下さい。
- ・ 発表形式: オーラルとポスターがあります。希望される発表形式を選択して下さい。
- ・ 発表番号通知: 2012年11月上旬に日本放射光学会ホームページ上で公開いたします。

9. 予稿集原稿について

- ・ PDFファイルで作成の上、発表申込の際に投稿してください。
- ・ 原稿形式 発表1件につき、予稿は1/4ページ(A6/縦置き)です。(A4縦置きの原稿4件を、50%に縮小してA4縦置きの頁に4件並べます。)

- ・ カラー印刷は受け付けませんので、ご了承下さい。
- ・ A4(縦長)に下記の要領で文字を打ち込み、原稿を作成して下さい。
 - ①用紙の余白／上 2.5 cm, 下 1.5 cm, 左右 2.5 cm
 - ②1 行目左端… 実験を行った施設名(12 ポイント)
 - ③2 行目中央… 表題(18 ポイント)
 - ④3 行目… 空ける
 - ⑤4 行目中央… 著者名・所属(14ポイント)
 - ⑥5 行目… 空ける
 - ⑦6 行目… 本文(14 ポイント)
- ・ 文字化けを避けるために必ずフォントを埋め込んでファイルを作成して下さい。

10. プログラムの掲載

- ・ プログラムは、11 月上旬に日本放射光学会ホームページ上に掲載いたします。
- ・ 日本放射光学会誌「放射光」**第 25 巻 6 号(2012 年11月末発行予定)**に掲載いたします。

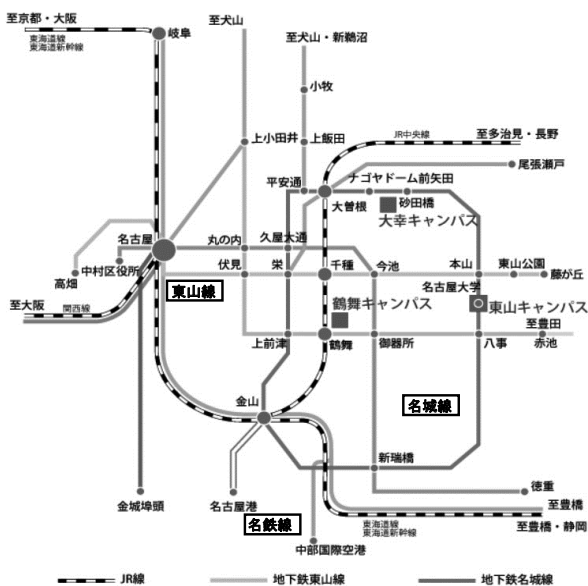
11. 企画講演の公募

前回と同様に、会員全体から企画講演を公募します。企画講演の形式や応募先・締切等は以下を参照ください。

- ・ 時間配分:1 つの企画講演を、趣旨説明を含めて全体で 180 分 (2 枠), 120 分 (1 枠), 90 分(1 枠)の計 4 枠が用意されています。
- ・ 企画の提案者には、講演の最初に趣旨説明と会期終了後の報告書の提出をお願いします。
- ・ 応募先:日本放射光学会事務局(jssrinfo@jssrr.jp)宛に電子メールで、①提案理由(200 字程度)、②講演者および時間配分を明記し、応募してください。
- ・ 応募締切:**2012 年 8 月 27 日(月) 17:00**

12. 会場へのアクセス、交通のご案内

- JR 東海「名古屋」駅で地下鉄東山線に乗換、本山駅で地下鉄名城線(時計回り)に乗換、「名古屋大学」駅下車。2, 3 番出口。
- 中部国際空港から名鉄線で金山駅へ、地下鉄名城線(反時計回り)に乗換、「名古屋大学」駅下車。2, 3 番出口。



運転スケジュール (Sep. ~ Dec. 2012)

E : ユーザー実験 B : ボーナスタイム
 M : マシスタディ T : 立ち上げ
 MA : メンテナンス HB : ハイブリッド運転

9月	PF	PF-AR	10月	PF	PF-AR	11月	PF	PF-AR	12月	PF	PF-AR
1(土)			1(月)			1(木)	M	M	1(土)		
2(日)			2(火)			2(金)			2(日)		
3(月)			3(水)			3(土)			3(月)	E	E
4(火)			4(木)			4(日)			4(火)		
5(水)			5(金)	STOP	STOP	5(月)	HB	E	5(水)	B	B
6(木)			6(土)			6(火)			6(木)	M	
7(金)			7(日)			7(水)			7(金)		
8(土)			8(月)			8(木)	M		8(土)		
9(日)			9(火)			9(金)			9(日)	E	E
10(月)			10(水)			10(土)			10(月)		
11(火)			11(木)			11(日)	E	E	11(火)		
12(水)			12(金)	T/M		12(月)			12(水)	B	B
13(木)			13(土)			13(火)			13(木)	M	
14(金)			14(日)			14(水)	B	B	14(金)		
15(土)	STOP	STOP	15(月)			15(木)	MA/M	MA/M	15(土)		
16(日)			16(火)			16(金)			16(日)		
17(月)			17(水)		T/M	17(土)			17(月)	E	E
18(火)			18(木)			18(日)	E	E	18(火)		
19(水)			19(金)			19(月)			19(水)		
20(木)			20(土)	E		20(火)			20(木)		
21(金)			21(日)		E	21(水)	B	B	21(金)		
22(土)			22(月)			22(木)	M		22(土)		
23(日)			23(火)			23(金)			23(日)		
24(月)			24(水)	B	B	24(土)			24(月)		
25(火)			25(木)	M		25(日)	E	E	25(火)		
26(水)			26(金)			26(月)			26(水)	STOP	STOP
27(木)			27(土)			27(火)			27(木)		
28(金)			28(日)	E	E	28(水)	B	B	28(金)		
29(土)			29(月)			29(木)	M	M	29(土)		
30(日)			30(火)			30(金)	E	E	30(日)		
			31(水)	B	B				31(月)		

スケジュールは変更されることがありますので、最新情報はPFホームページ(<http://pfwww.kek.jp/indexj.html>)
 の「PFの運転状況／長期スケジュール」(<http://pfwww.kek.jp/unten/titlej.html>)をご覧ください。
 今期のPFリングのマシスタディは半日ずつとなり、木曜の夜からユーザー実験となります。